

質疑回答一覧表（武蔵野市学校施設整備基本計画策定審議会の審議経過に関する説明会）

※質問及び回答については、会場での発言をできる限り忠実に再現したものです

会場	質問	審議会事務局からの回答
一中	小中学校の適正規模を「12学級以上18学級以下」に変えることを検討しているとのことだが、適正規模は市立小中学校全てで目指していく学級数なのか。この基準は、あくまでも国の基準であって、武蔵野市も同じ基準にする必要があるのか。現状で4校（第一中、第三中、第五中、第六中）が基準以下の規模となっているが、全てを12学級以上にすることができるのか。中学校で言えば、1学年3学級以上、学校全体で9学級以上という検討はされているのか。 改正案とあるが、この数字ありきで進む気がしてならない。	小中学校の適正規模は、教育を第一としたときに市立小中学校全てで目指す学級数であるが、適正規模に満たない学校への対応策については、教育的な観点を大事にしながら、個々に検討する必要がある。また、適正規模の変更については、第3回審議会（R7.11.6）において審議される予定である。なお、現在改正案として審議されている「12学級以上18学級以下」という基準は法令を根拠としている。東京都内の市区の7割程度がと同様の基準としている。審議会でも検討を行っているもので、数字ありきではない。審議会の経過について、多くの方に傍聴（オンライン又は対面）していただきたい。
一中	学校1校建てるのにいくらかかるのか。児童生徒数がどのように推移するのか。公立中学校の魅力向上も必要だと思う。	学校1校建てるのに、現時点で約70～80億円程度かかっている。この金額は10年前から比べると約4割上昇しており、今後も上昇の見込みである。仮設校舎のリース料についても上昇しており、15～20億円と想定している。 児童生徒数推計については、第3回審議会（R7.11.6）で暫定速報値を示す予定である。 審議会委員には、市内の小中学校長に加え、校長経験のある学識経験者に会長として入ってもらっており、魅力ある教育活動についての議論をしてもらいたいと考えている。
一中	第五中の新校舎が完成して半年経過した。新校舎に対する生徒から声を紹介してほしい。	【良かった点】 令和7年6月に実施したアンケート調査では、友達と話したり発表に使える「5中ステップ（発表階段）」、通りがかりの人でも本を手にとれる「ラーニング・コモンズ（学校図書館）」、旧校舎の体育館と比べて広くなり設備も良くなった「体育館」の人气が高かった。アンケート調査以外で教育委員会に寄せられる意見として、自習スペースが使いやすい、室内が明るくなったというものもあった。 【使ってみてわかった課題点】 令和7年9月に審議会委員が学校見学をした際には、教員の更衣室や休憩スペースを充実させてほしいという声が教員からあった。また、収納スペースが足りないという声もあるが、新校舎完成後にフックを追加することで対応した。
一中	ラーニングコモンズ、五中ステップが好評なのはよくわかる。新しい第五中の教室、体育館のサイズが旧一中と比較して小さくなったように感じたが、コスト縮減のために小さくしていないか。	教室、体育館のサイズは小さくしていない。10、20年前と比べて、子どもたちの荷物は増えたため、家に持ち帰らなくて良い荷物を増やしている。その結果、学校に置く荷物が増えているため、教室が小さくなったように感じる可能性がある。
一中	2年前に争点になっていた第二中、第六中の話はこれまでの審議会に出ているのか。	第2回（R7.9.18）までの審議会では、第二中、第六中の話は出していない。第3回（R7.11.6）で児童生徒数推計（暫定速報値）を提示するため、児童生徒数推計を基にした議論となる。それぞれの地域の方が審議会委員になっているため、第二中、第三中、第四中、第六中について議論になると想定している。また、第一期学校施設整備基本計画で今後の改築順が決まっているため、次に改築を控える学校が議論の中心になる可能性がある。

<p>一中</p>	<p>私立中学校に進学した生徒の保護者に、市立ではなく私立を選んだ理由についてアンケートは取っているのか。 保護者の中には一中は内申点を取りづらいため、私立を選ぶ人もいようだ。</p>	<p>アンケートの実施は、それぞれの家庭の事情もあるので難しい。第三中に通っている生徒の保護者からは、私立と比較して非常にコストパフォーマンスの高い市立との評価を得ている。また、第五中は校舎が新しくなったが、近隣の小学生保護者の学校見学者数が増えている。これらの事例は市立中学校が魅力ある学校と評価されているという一つの側面ではないかと考えている。 内申点の取りづらさはどこの自治体でも出る話だが、現在は絶対評価であり、特定の学校で内申点を取りづらいということはない。</p>
<p>一中</p>	<p>各小中学校を改築するにあたり、学級数の算定については、どのように計画しているのか。</p>	<p>直近の人口推計をもとに学級数を算定することで、後に校舎の増築等の対応が必要にならないように計画している。第3回（R7.11.6）審議会で児童生徒数推計（暫定速報値）を提示する。</p>
<p>二中</p>	<p>学級数の適正規模を検討する際に、大規模校、小規模校のメリット、デメリットについて、国や都、あるいは研究者等による科学的な根拠資料は審議会で提示されているのか。 仮に統合した場合に、通学距離が遠くなる子もいると思うが、どの程度までなら問題ないと考えているのか。</p>	<p>武蔵野市の子どもたちにとって、適切な学級数、規模を審議会委員に考えてほしいため、「12学級以上18学級以下」という国の基準以外に根拠資料は出していない。審議会委員である市内小中学校校長から、一般論としてのメリット、デメリットを話してもらうことはある。さらに、審議会委員にはコロナ禍で小学校の校長をされていた学識経験者にも入ってもらっており、教育の観点を第一に、子どもに寄り添った視点をもった議論をしてもらいたいと考えている。再編ありきということではなく、子どもの教育を第一にしたときの最善の学級数を考えてみようということで審議されている。現時点では、通学距離の議論にはなっていないが、次回審議会（R7.11.6）で児童生徒数推計（暫定速報値）を出すため、今後議論になる可能性がある。</p>
<p>二中</p>	<p>ここまでの審議会では、地域としても保護者としても、武蔵野市の子どもたちがよりよい環境で育っていくということが重要であり、そのためにはどのような学校であるべきかを審議会で検討されている状況だと思っている。 今後審議会で議論され、その結果が地域や保護者に示されたときに、パブリックコメントで意見を言えればいいと考えている。現時点では審議会の審議内容を見届けることが重要なのだと思う。</p>	<p>教育を第一にしたときに学校がどうあるべきかを審議会で議論している状況であり、今回の説明では、審議会での審議の経過を地域に伝えている状況。審議会の様子をぜひ傍聴（オンライン又は対面）してほしい。</p>
<p>二中</p>	<p>学校改築のリーフレットはコミセンにも置くと、より多くの方に読んでもらえると思う。</p>	<p>今後コミセンにも依頼していく。</p>
<p>二中</p>	<p>第五中学校の新しい校舎ができたが、生徒のおすすめ、あるいは生徒からこうしてほしいと言われていることについて教えてほしい。また、リーフレットvol.3に載っている第五中学校の特徴（ラーニング・コモンズ、学年コモンズ、5中ステップなど）はどの学校にもある施設か。 また、保育園では医療的ケア児を預かっている。小中学校ではどのように考えているか。</p>	<p>生徒に人気のスペースとしては、五中ステップ（発表階段）や自習スペースが挙げられる。一方で改善点としては、収納の少なさが挙げられているが、年内に改善できる見込みである。また、今回の知見を今後の設計に活かしていく。 新しい第五中にある特徴については、現在改築事業に着手している第一中、第五小、井之頭小には設置される。 医療的ケア児に限定した対応ではないが、バリアフリー、ユニバーサルデザインに配慮した計画になる。また、人の目を気にしてトイレに行きづらい子どもにとって、教室から離れたエリアである地域開放スペースのトイレが好評であった。こういった知見を次の設計に活かしていく。</p>
<p>二中</p>	<p>小中学校の改築に関する情報なのだから、学校以外の教育施設にリーフレットを置くと良いと思う。</p>	<p>今後学校以外の教育施設にも学校改築リーフレットを配布していく。</p>
<p>三中</p>	<p>学区変更についても検討するのか確認したい。お金があるうちに建て替えを進めてほしいと思う。中学校の35人学級は決まっていないのか。</p>	<p>第1回（R7.7.17）、第2回（R7.9.18）審議会では学区変更の話は出ていない。第3回（R7.11.6）以降の審議会で、まず小中学校の適正規模を決め、その後、適正規模に満たない小中学校への対応について、それぞれの対応策のメリットやデメリットを踏まえ、具体的に検討していくことになる。中学校の35人学級については、東京都で令和8年度から段階的に実施される予定である。</p>

三中	市内の中学校6校それぞれの特徴をもっと出していくべきではないか。私立に行く子どもが多い。公立に通う子は受験をしなくていいからという理由が少なくないが、中学校ごとの特徴があると積極的に公立を選ぶという考え方も広がると思う。また、学校の特徴は、教員の力量により形成されているものが多い印象を受けている。学校の特徴は地域に周知されているとは言えない。今後パブリックコメントの際に意見を提出したい。	特徴のある学校は選ばれやすいと考えているが、教員は長くて6年程度で異動してしまう。学校の特徴が地域活動に根差したものであれば、継続性があるものになりやすいと考えている。例えば第三中の演劇祭や第五中の市長への提言などの取り組みがある。こうした各学校の特徴を広く知ってもらえるよう、周知方法を工夫していきたい。
三中	地域子ども館の館長をしており、建て替えが気になっている。私立に行く子供も多いが、特徴ある学校で魅力が伝わると公立にも通うことにもなる。	特徴のある学校は選ばれやすいと考えている。市立中学校では、例えば第三中では毎年演劇祭を実施している。また、武蔵野市民科という授業があるが、元々は第五中の特徴的な企画を基にして全小中学校で始まったものである。各学校の特徴を広く知ってもらえるよう、周知方法を工夫していきたい。
三中	地域の声を聴くことは重要。選ばれる公立学校であってほしい。教員は尽力してくれていると感じている。少子化の中で、学校がきれいになるだけでなく、教育の質の向上、地域との連携が重要である。 学級数について、学級数が増えるほうが人間関係に息詰まるのが減ると思うが、人口が減っている状況で、現在審議会で審議している「12学級以上18学級以下」という適正規模の維持が現実的にできるのか。今後の人口推計からどのくらいの学級数になっていく想定なのか。	建設費はここ10年で4割上昇しており、今後も上昇が見込まれる。子供たちの将来の人口について、第3回(R7.11.6)審議会で暫定速報値が提示する。魅力のある中学校を作り、小学生が地元の中学校に通いたいと思ってもらいたいと考えている。第三中の保護者に、コスパが良く、私立と同等の魅力があるとされたことがある。魅力を発信していきたい。
三中	新入生説明会で、教員から「新入生の入学を楽しみにしています」との挨拶があった。公立の魅力伝えていく必要があると教員も感じていることの表れだろうと感じている。新しくなった学校を見た保護者に、三中の校舎は古いけど、味があると言ってくれる方もいる。	学校は一度建てると60年以上使うことになるため、学校施設整備基本計画の改定のタイミングや、各校の改築計画・設計のタイミングで地域の方から意見を出していただきたい。
三中	小さい子に公立の魅力伝えるため、保育園を複合化するのもありではないか。小中学生が保育園児の世話をするのもいい。他自治体の中学校では、高齢者施設、コミセンを複合化しており、日々多様性を学べる環境ができていく。今以上に市立中学校を選んでほしい。	学校以外の施設との複合化については、各学校の改築基本計画の前段階で検討することになるが、敷地によって、床面積や建物高さの限度が異なるため、複合化が難しい学校もある。複合化ができない場合でも、将来の用途変更を見据えて壁の位置を変えられるよう計画している。
四中	学級数が少ない学校は先生が少なくて単独で部活動ができず、他校と連携していると思う。こういった取り組みも考慮したうえで審議がされているのか。	部活動の拠点校は今年度から始まった。現時点で50名程度が他校の部活動に参加しており、制度を利用している生徒から好評をいただいている。部活動の拠点校制度と小中学校の適正規模については、分けて考えていくべきと考えている。現状、11学級以下の学校が多いが、こういった適正規模に満たない学校への対応をどのようにすべきかを、第3回(R7.11.6)以降の審議会で審議していく想定である。
四中	第五中新校舎の玄関に行ったときに、近代化されていてよい反面、すっきりし過ぎている印象を受けた。緑がもう少しあってもよいのではないか。四中は地域で花を植えたりしている。	ご意見として承る。
四中	今年度から第五小は第五中敷地内の仮設校舎を利用しているが、第五小と第五中が連携できていると聞いている。関前南小とも連携ができるといいと思う。 審議会ではハード面、ソフト面の両面を議論しているのか。ソフト面についてどのくらいまで広げて議論していくのか。教員になりたい学生が、教員が忙しすぎることを理由に、教員になるのをあきらめる人もいると聞いている。こういった問題は、ハード面ではなく、ソフト面でこそ解決できることだと思うが、地域住民との交流がキーになるのではないかと感じる。学校に通う子供たちによつての居心地が第一だが、地域にとっても通いやすい建物になってほしい。また、今後の開かれた学校づくり協議会委員と学校のかかわり方も気になる。 児童生徒数の推計を見据えて議論する必要があるのではないかと。	第五中はバリアフリーに配慮して計画している。学校はほとんどの人が通ってきた施設のため、様々な意見が出る。意見の全てを叶えることは難しいが、子どもの教育のための最善を考えることが重要である。児童生徒数推計については、第3回審議会(R7.11.6)で暫定速報値を提示する。

四中	地域で子供が育ち、戻ってきてくれるようになってほしい。中学生は多感な時期のため、ハード面だけでなくソフト面の充実が重要ではないかと思う。学校改築について、情報を得ることができれば発信していきたい。	第1回(R7.7.17)、第2回(R7.9.18)審議会では、教員が能力を発揮できるように、子どもたちにとってどのような教育が必要かを話し合う環境づくりが重要だという意見が出ていた。より多くの方に知ってもらえるように、今後も発信していく。審議会はオンライン配信もするので、ぜひ傍聴してほしい。
四中	小学校と中学校の大きな違いとしては、高校受験の有無である。子どもたちは先生の評価を気にしている。どうやって社会的な成長を評価するのか。社会に出ていくきっかけとして、地域との関わりができると豊かになるのではないかと感じる。	学校と地域の連携により良かったこととしては、色々なリーダーシップの取り方ができるようになることである。各学校の特徴が出てきている。例えば第一中では、一中フェスタで地域の方との交流で趣味を見つけ、居場所ができた子もいる。第五中では生徒から市長に提言する取り組みを実施している。第三中は毎年演劇を実施している。各校で特徴がある。
四中	防災の拠点になるので、バリアフリーの視点は重要。また、共働き世帯が多いため、学童の部屋は充実させてほしい。特別支援学級も増やしてほしい。	新しくできた第五中学校、もうすぐ竣工を迎える第一中学校はバリアフリーに配慮して計画されている。学童については、今後改築工事を控える第五小、井之頭小では児童、支援員が利用しやすいよう設計が進められている。 特別支援学級については児童生徒数とのバランスを考える必要がある。
四中	建て替えの順番が変わったと聞いている。	第一中の不調があったため、第一中と第一中敷地内の仮設校舎を利用する井之頭小の改築時期がズレているが、その他には特に順番は変わっていない。第二期学校施設整備基本計画としては、来年度実施予定の建物の健全度調査結果を踏まえ順番を検討するが、大きく順番が変わることは想定していない。
四中	第五中新校舎が完成して半年経過したが、改善点として挙げていることはあるか。	当初想定よりも荷物が多かったため、収納が不足していることが判明した。年内に改善できる見込みである。また、今回の知見を今後の設計に活かしていく。
四中	校長が変わると学校の特徴は変わるのではないか。	変わっていく特徴もあるが、地域で培われた特徴は、校長が変わっても継続している。
五中	第一中の生徒は、改築工事中の体育祭は陸上競技場で実施してきた。第一中新校舎完成後も校庭には仮設校舎(井之頭小が利用)があるため、引き続き体育祭の実施は難しいと考えている。	第一中新校舎完成後の体育祭については、第一中が現在検討している。対応例を紹介すると、第五小は第五中敷地内の仮設校舎で学校生活を送っているが、第五中校庭で運動会を実施する。児童席にテントを建てる校庭で実施できないため、テントを建てる必要のないR7.11.1に実施時期をずらした。来年度から第一中敷地内の仮設校舎に移転する井之頭小は、第一中学校校庭での運動会実施は難しいと考えている。第一中の既存体育館で実施可能な競技をメインとし、徒競走等は校庭で実施することを想定している。
五中	今後審議会が進み、最終の答申が出る際には、具体的な学校名が記載されることになるのか。学区域は地域コミュニティを形成する大きな要素であるため、学区域を変えて、例えば第五中に他の中学校の学区域の一部を取り込むようなことはかなり難しいと思う。	第1回(R7.7.17)、第2回審議会(R7.9.18)が開催されているが、現時点で学区域の話は議論されていない。諮問内容が中学校の適正な数のため、今後具体的な学校名が出る可能性はあるが、現時点でこういった記載になるかはわからない。審議会は最善を考える場であり、理想を語ってもらう場だが、地域から出ている声は審議会に届けていく。
五中	現在第一中や第五小、井之頭小の改築が進んでいる。次は第二中、第六中、第二小、境南小と聞いているが、この順番もゼロから検討しているのか。以前第二中、第六中統合の話が出たが、そこもゼロから検討していくのか。	第二中、第六中、第二小、境南小の建て替え順は現行の学校施設整備基本計画(R2.3策定)で定められている。築年数に加え健全度によって順番を決めており、来年度健全度調査を実施するが、大きく当初予定から変わらない想定である。現在は、基準となる小中学校の適正規模について議論している。教育内容の変化は著しいが30年先を見据え、検討している。昨年度、市内の中学生からは、学級数が少ないと人間関係が悪くなると息詰まるという声があった。学級数が少ないと、教員にとっても一人当たりの事務負担が大きくなったり、教員同士の切磋琢磨がしにくい等のデメリットがある。 第1回(R7.7.17)、第2回審議会(R7.9.18)では、第二中、第六中再編の話は出ていないが、第3回(R7.11.6)以降で議論になる可能性はある。
五中	学級数の適正規模を維持するための方法として、学区域の変更も選択肢にあるのか。	他自治体では学区域の変更を実施している事例もある。第1回(R7.7.17)、第2回審議会(R7.9.18)では、学区域変更の議論にはなっていない。第3回(R7.11.6)審議会では学校毎の児童生徒数推計(暫定速報値)を提示するため、第3回(R7.11.6)以降で議論に

五中	学級数の適正規模の改正案「12学級以上18学級以下」はたたき台か。改正案は一つではなく、いくつかあるべきではないか。	今回の改正案「12学級以上18学級以下」は、国の基準に準拠するものである。第2回審議会では、改正案を仮置きしている状況であり、第3回審議会でも適正規模について継続して審議する予定である。
五中	人口推計は時々修正されていると思う。境北小と桜堤小を統合し、桜野小ができた。その後桜堤地域の人口が増え、小学校を一つにまとめなければよかったと言っている人もいた。統合するのではなく、各学校をスケルトンインフィルの計画とし、人口が増えたときに教室に改修できるようにするべきだと思う。 通学する学校が決まっていることが公立学校のアイデンティティだと思ふ。武蔵野ジャンボリーが表彰されたときに、武蔵野市の地域の方は地元の子どもに注ぐ情熱はけた違いだと評価された。最近では、地域活動する人の人数が右肩下がりに減っているなかで、学区域を変更するのは、地域と学校の連携を弱め、教育活動にも影響が出ると思う。	人口推計については、長期計画や調整計画の策定のタイミング、あるいは、推計から1%の誤差が生じた際に推計を見直している。現在改築を進めている4校（第五中、第一中、第五小、井之頭小）では、壁の位置を変えやすいように、スケルトンインフィルの計画としている。市立小中学校の学区域は地域コミュニティと密接に関連していると考えている。特に小学校の学区域は、青少協とも関連するため、地域コミュニティとの関連性は顕著である。第1回（R7.7.17）、第2回審議会（R7.9.18）では、学区域変更の議論にはなっていない。第3回（R7.11.6）審議会でも暫定速報値を提示するため、第3回（R7.11.6）以降で議論になる可能性はある。
五中	第六中以外の中学校は第六中よりも北側に寄っていて、バランスとして南側が寂しい印象を受けた。学校の統合を検討する際には配置を意識する必要があるのではないか。	ご意見として承り、審議会に届けていく。
六中	全市的な視点とあるが、様々な部門を巻き込む必要がある。学校は公共施設の中で最も重要な施設である。一方財政のことを考えると、全市的な敷地面積、床面積を減らす視点が必要。	学童クラブ、避難所等の機能も有するため、教育委員会以外の様々な部署と連携しながら検討を進めている。これは市役所内部に限った話ではなく、審議会委員にも防災に尽力されてきた地域の方に入ってもらっていたり、現役の保護者にも入ってもらっている。
六中	学校に通う児童生徒数の推移はどうなっていくのか。境北小、桜堤小の統合して桜野小になったが、母校の学校名がなくなってさみしいという意見があった。慎重に進める必要がある。防災の視点も必要。	第3回（R7.11.6）審議会でも児童生徒数推計（暫定速報値）を出すことになった。今後ホームページでも公開していく。 他自治体では地域住民が訪れやすいメモリアルルームを整備し、総合前の校名板、校旗などに触れられるようにしているところもある。防災の視点についても今後審議会でも議論されることになると想定している。審議会委員の中には防災について尽力されてきた方も含まれている。学校建築の学識経験者も防災の視点が重要だろうという意見が出ている。本日の意見も審議会に届けていく。
六中	通学距離のバランスを考え、学区域を変更することも視野に入れるべき。友達との関係が悪くなり、それが原因で私学を選ぶということのないよう、ある程度学級数は多いほうがいい。新しい第五中学校のように地域住民が使える部屋を用意してほしい。私のような家のことばかりしていた人間にとって、地域の人と交流できる場があるのはありがたい。	第2回（R7.9.18）審議会までは、小中学校の適正規模、望まれる校舎について議論している。学区域について議論されるのは、小中学区の適正規模について決まってからとなる想定である。なお、通学距離は30分以内と一般的に言われている。境南小と第四小は公立中学に進学する際に2つの中学に分かれて進学することになるが、このことについて、好意的な意見もあれば否定的な意見もあるのが現状である。小規模な学校は関係性が高いと居心地がいいが、関係性が悪くなった時にクラス編成で配慮ができない。メリットもあればデメリットもある。
六中	地域とのかかわりは大変というよりも、地域とのかかわりによって教員の働き方改革につながっていると感じている。地域の方がかかわった学校の方がより良い学校になると考えている。	教育委員会も同様に考えている。各校への地域コーディネーターの配置や開かれた学校づくり協議会の設置など、地域と学校が関われるように推進している。
六中	人口推計は学校毎の推計を基に議論するべきだと思う。 小学校と中学校の連携は重要。地域の子どもには地域の学校で育ててほしい。中学校にはもっと頑張ってもらいたい。学校の中にコミセンが入ると、学校が地域に協力できるようになったり、反対に地域に協力してもらおうことになると思う。	小学校と中学校の連携は近年増えてきている。学校と地域の連携を推進するため、現在改築している学校（第五中、第一中、第五小、井之頭小）では、地域連携室等を計画している。

<p>六中</p>	<p>付加価値を持たせた建て替えが必要である。例えば地域の公共施設との複合化。午前から学校が使い、放課後は学童が使う。夜は地域が地域開放で使う。さらには高齢者施設も複合化してもいい。学区域の見直しも当然必要になると思う。 第六中南東部の境冒険遊び場広場と第六中テニスコートの敷地を交換できると敷地が整形になる。</p>	<p>学校以外の施設との複合化については、各学校の改築基本計画の前段階で検討することになるが、敷地によって、床面積や建物高さの限度が異なるため、複合化が難しい学校もある。複合化ができない場合でも、将来の用途変更を見据えて壁の位置を変えられるよう計画している。第1回（R7.7.17）、第2回審議会（R7.9.18）では、学区域変更の議論にはなっていない。第3回（R7.11.6）審議会で学校毎の児童生徒数推計（暫定速報値）を提示するため、第3回（R7.11.6）以降で議論になる可能性はある。境冒険遊び場広場と第六中テニスコートの敷地を交換する場合、以下の課題がある。公園を第六中テニスコートに移すことについて、周辺住民からの理解を得る必要がある。現在公園には豊富な既存樹木を活かしプレーパーク事業を実施しているが、第六中テニスコート敷地にはプレーパーク事業に活用できる既存樹木がない。公園内には神社が存在している。</p>
<p>六中</p>	<p>学区域の変更の難易度は高いのか。過去にも第二中、第六中の学区域が変更されたことがあったが、気づいたら変わっていたため、簡単に変えられる印象がある。</p>	<p>学区域の変更のためには、本審議会とは別に、改めて審議会を立ち上げることになる。学区域とコミュニティは密接な関係があるため、様々な配慮が必要である。第二中、第六中の学区域変更の際もかなり綿密に地域と協議を重ねた。</p>
<p>六中</p>	<p>学校改築だけでも、子どものストレスは大きい。加えて統合の話も出ると気の毒になる。統合はしないでほしい。新しい校舎は将来的にほかの用途に改修できるようなつくりにしてほしい。地域に話をする場合は、団体ごとに集めるのではなく、いくつかの団体を集めて実施してほしい。メンバーが重複することが少ないので。</p>	<p>第1回（R7.7.17）、第2回審議会（R7.9.18）では、統合の議論にはなっていない。第3回（R7.11.6）審議会で暫定速報値を提示するため、第3回（R7.11.6）以降で議論になる可能性はある。現在改築を進めている4校（第五中、第一中、第五小、井之頭小）では、壁の位置を変え、ほかの用途に転用しやすいように、スケルトンインフィルの計画としている。地域に話をする際の対象については、工夫していきたい。</p>